

CVA Capital Charge

2015年11月11日（水）開講、全3回

OTC クオンツスクール

キーワード：CVA, Counterparty Credit Risk (CCR), Counterparty Credit Exposure, Expected Exposure (EE), Exposure at Default (EAD), Internal Model Method (IMM), Advanced Approach, Standardized Approach, Default Capital Charge, CVA Capital Charge, Regulatory CVA, FRTB-CVA Framework, Basic-CVA Framework

バーゼルⅡでのカウンターパーティリスク（CCR）の資本計算では、1年以内の倒産リスクを計測するローンポートフォリオのアプローチをデリバティブにも援用していました。ただし、満期ファクターで、倒産には至らないまでもカウンターパーティの信用力が悪化するリスクを織り込んでいます。

バーゼルⅢでは、カウンターパーティの信用力が悪化するリスクを CVA 変動による損失として切り出し、倒産リスクによる資本計算とは別に、進的手法と標準的手法が用意されました。先進的手法は、CVA 変動をマーケットリスクとしてみるアプローチで、標準的手法はそれを信用リスクとしてみるアプローチと解釈することが可能です。バーゼルⅡでの倒産による資本計算のエキスポージャから当初の CVA が控除でき、満期ファクターの調整がなくなります。

FRTB (Fundamental review of trading book、次期のマーケットリスク資本規制)では、CVA ブックを除くトレーディングブックの CCR を信用スプレッドリスクと倒産リスクに分け、信用スプレッドの変動をマーケットリスクととらえることにしました。

今年の7月にバーゼル銀行監督委員会は、CVA 資本計算を見直す市中協議文書を公表しました。提案されている2つのアプローチは、CVA デスクがある銀行は CVA の変動リスクをマーケットリスクとして、FRTB と整合的になるような2手法（いわゆる FRTB CVA アプローチ）で、CVA デスクがない銀行は現在の標準的手法の改訂版である Basic CVA アプローチで、それぞれ資本計算することを提案しています。エキスポージャに対する CVA 変動リスクが新たに資本計上されることになり、FRTB-CVA では、エキスポージャに対するヘッジ取引も考慮して規制資本を計算できますが、Basic-CVA ではこのヘッジ取引は考慮できません（そもそも、CVA デスクがないので、エキスポージャのヘッジはおこなってないであろう）。

今回のセミナーではまず、CVA 計算の基礎理論や実測度とリスク中立測度の使い分けを講義します。最近、“ヒストリカル PD に基づく CVA 計算”という言い回しをよく耳にしますが、誤解を与える表現です。次に、倒産と信用力変化からくる CCR をマーケットリスクと信用リスクとして考える場合の枠組みを議論します。その上で、バーゼルⅡとバーゼルⅢでの CCR 資本賦課(Default capital charge 及び CVA

capital charge (バーゼルⅢのみ)の考え方を説明し、特に現在のCVA資本賦課の先進的手法と標準的手法について詳しくみていきます。最後に、現在の枠組みの問題点を明らかにして、新しい枠組みであるFRTB-CVAのフレームワークを概観し、現行の標準的手法からBasic-CVAへの変更点とその理論的な背景を詳しく説明します。

セミナー対象者

- ・ 金融機関におけるクオンツ、トレーダー
- ・ 金融機関のデリバティブ、ALM、リスク管理、制度等の関係部署の方
- ・ 監査法人でデリバティブ業務等の監査に携わる方、金融商品の評価業務、制度に携わる方
- ・ デリバティブ、金融リスク、制度関係のシステム構築に携わる方
- ・ レギュレーター、資本計算などの制度設計をされる方
- ・ 微分積分の計算に抵抗のない方

講義日程

第1回	第2回	第3回
11/11 (水)	11/18 (水)	11/25 (水)

時間： 18:00 – 21:00

会場： JAビル カンファレンス 401B

定員： 25名（申し込み人数が定員になった時点で締め切らせていただきます）

担当講師

高田勝己（株式会社 Diva Analytics 代表取締役）

平成元年、一橋大学経済学部卒業。日本債券信用銀行 資金証券部 調査役、さくら銀行 商品開発部 上席調査役、コムツ証券会社 債券部トレーディングデスク ディレクター、ベアースターンズ・ジャパン 債券部 マネジングディレクター、RBC(Royal Bank of Canada)キャピタルマーケット・ジャパン ディレクターを経て、現在、株式会社 Diva Analytics にて金融デリバティブモデル、リスク管理、制度にかかるコンサルティングやシステム開発に従事するかたわら東京大学大学院経済学研究科で非常勤講師を勤める。シカゴ大学 MBA Analytic Finance 専攻。東京大学大学院 数理科学 後期博士課程修了。

受講料

120,000円（消費税別）

学生割引：フルタイムの学生は50%の受講料で受講できます。

お申込み

OTC クオンツスクールのホームページ <http://www.divainvest.jp> から申し込んでください。

講義内容

第1回 カウンターパーティ・リスク (CCR)

- ・カウンターパーティ・エクスポージャ
- ・実測度とリスク中立測度
- ・Unilateral CVA と Bilateral CVA
- ・倒産による損失と CVA 変化から損失
- ・マーケットリスクとしての CCR
- ・クレジットリスクとしての CCR

第2回 CCR 資本賦課

- ・バーゼルIIでの CCR 資本賦課
- ・バーゼルIIIでの CCR 資本賦課
- ・倒産による資本賦課
- ・CVA 資本賦課の先進的手法
- ・CVA 資本賦課の標準的手法

第3回 標準的手法、Basic CVA アプローチの完全導出

- ・CVA の標準的手法の完全導出
- ・FRTB(新しいトレーディングブック資本規制)との関係
- ・FRTB-CVA アプローチ
- ・Basic-CVA アプローチの完全導出
- ・問題点

(注) 講義内容は見直し等により変更になる場合があります。